



## 2026年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年8月8日

上場会社名 SREホールディングス株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 2980 URL <https://sre-group.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役 社長 兼 CEO (氏名) 西山 和良  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 企画管理部門長 (氏名) 松井 徹 TEL 03-6274-6550  
 配当支払開始予定日 —  
 決算補足説明資料作成の有無：有  
 決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2026年3月期第1四半期の連結業績（2025年4月1日～2025年6月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第1四半期	4,240	△16.3	92	△89.1	31	△96.1	△19	—
2025年3月期第1四半期	5,067	18.1	851	320.6	815	387.8	497	271.4

(注) 包括利益 2026年3月期第1四半期 10百万円 (△98.1%) 2025年3月期第1四半期 535百万円 (282.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第1四半期	△1.21	—
2025年3月期第1四半期	30.92	30.53

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期第1四半期	32,952	14,123	40.6
2025年3月期	30,470	14,346	44.8

(参考) 自己資本 2026年3月期第1四半期 13,390百万円 2025年3月期 13,652百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	0.00	—	15.00	15.00
2026年3月期	—				
2026年3月期（予想）		0.00	—	18.00	18.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	35,000	31.1	4,050	30.3	3,650	25.7	2,220	30.8	137.88

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年3月期1Q	16,233,785株	2025年3月期	16,233,785株
② 期末自己株式数	2026年3月期1Q	133,513株	2025年3月期	132,546株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年3月期1Q	16,101,203株	2025年3月期1Q	16,079,290株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当四半期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当四半期の財政状態の概況 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書 .....	6
四半期連結包括利益計算書 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(セグメント情報等の注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	10

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当四半期の経営成績の概況

当社グループは「今の先鋭が10年後の当たり前を造る A DECADE AHEAD」をミッションに掲げ、ライフテックカンパニーとして大きく2つの事業を展開してまいりました。1つ目の事業は、不動産/金融業界からIT/ヘルスケア領域まで様々な業界のDXに向けて、機械学習等のテクノロジーを活用したモジュールをベースに、パッケージ型クラウドツールやテーラーメイド型アルゴリズムを提供する「AIクラウド&コンサルティング (AICC)」事業であります。2つ目の事業は、お客様への確かな価値提供とテクノロジーの積極活用の両立を目指すアセットマネジメント事業、仲介コンサルティング事業、デベロップメント事業を展開する「ライフ&プロパティソリューション (L&P)」事業であります。

実業（リアルビジネス）である不動産や金融、IT/ヘルスケア事業を自ら手掛け、業務上の非効率や課題に直面することで、機械学習等の高度なテクノロジーの活用の可能性を見出し、当社グループの内部オペレーションにそのテクノロジーを取り込み、競争力・効率性の改善を図っております。同時に、リアルビジネスにおけるテックにより効果が検証された業務推進・効率化ツールは、当社自身がユーザーとして使い勝手をフィードバックすることで実務有用性を磨き込み、同業他社のお客様に提供しております。加えて、こうした導入実績から様々な企業との提携が進み、ソリューション共同開発に取り組んでおります。

実業（リアルビジネス）を手掛けることが、実務有用性の高いAIソリューション・クラウドツールの顧客への提供に密接かつ効果的に機能しており、この「リアルビジネスを内包したテックプロバイダー」という独自の顧客提供価値の追求が、様々な業界のDXや事業拡大に貢献しております。

当社グループが手掛けるAICC事業の業務環境をみれば、少子高齢化が急速に進行する中、健康寿命の延伸がますます重視されるようになり、保険診療に加えて予防医療への関心が増しております。また、生産年齢人口の減少が見込まれること等から、専門人材不足などの課題が深刻化している一方で、AI技術の進化は日進月歩で進んでおります。そのため、省人化や利益拡大を見据えた取り組みをテクノロジーの活用を通じて進める業界横断的なAX（AIトランスフォーメーション）/DX気運の高止まりが随所にみられ、実務有用性の高いAX/DXソリューションを提供する当社事業においても追い風となっております。L&P事業の業務環境をみれば、様々なアセット種別に対する投資ニーズの高まりが引き続き見られます。

このような業務環境の下、当社グループはAICCセグメントにおいて、ヘルスケアや金融、IT領域において事業成長を着実に進捗させ、その他産業に向けても自社の持つAIモジュールを活かしたDXソリューションを提供してまいりました。具体的には、ヘルスケア領域において、治療院向けにクラウドレセコン提供及びレセプト業務支援を行う株式会社メディックスを2024年4月から子会社化したことに加え、前第2四半期に契約締結した大型案件が同第3四半期から本格的に寄与しました。また、前期からパラマウントベッド株式会社との協業によるライフログデータを活用した遠隔診療の実地検証、株式会社みずほ銀行とのクラウドサービス連携、ソニーグループのインド拠点 Sony India Software Centre (SISC) との連携によるセキュリティ診断サービスの提供を開始するなど、多様な業界との連携を通じた収益多角化が順調に進んでいます。

また、L&Pセグメントにおいては前期に「ダブルツリーbyヒルトン東京有明」の運用を開始した他、第4四半期における自社開発物件のSREアセットマネジメントが組成する不動産ファンドへの売却等を背景に、アセットマネジメント事業におけるAUM（預かり資産額）を増やし、リカーリングビジネスがL&Pにおいても拡大しました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の経営成績につきましては、AICCセグメントでライフ&ヘルスケアソリューション（LH）の売上がプロップテックソリューション（PT）を上回る規模に拡大し、ARR（アニュアルリカーリングレベニュー/年次経常収益）が計画通り伸長したものの、L&Pセグメントで自社開発物件の売却時期が下期に偏ることもあり、売上高は4,240,368千円（前年同期比826,809千円減（16.3%減））、営業利益は92,445千円（前年同期比758,573千円減（89.1%減））、経常利益は31,526千円（前年同期比783,716千円減（96.1%減））、親会社株主に帰属する四半期純損失は19,416千円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益497,159千円）となりました。

当第1四半期連結累計期間のセグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

<AIクラウド&コンサルティングセグメント>

ライフ&ヘルスケアソリューション（LH：ヘルスケア/IT/金融領域を主な対象とした、業務支援型クラウドツールやDXソリューションの提供）は、2024年4月に子会社化した株式会社メディックスの売上貢献に加え、平均顧客単価を高水準で維持しながら顧客獲得が着実に伸長しました。また、クリニック等のヘルスケア領域を中心に新規プロダクトや新機能の追加開発およびテストマーケティングも複数進めております。

プロップテックソリューション（PT：不動産領域を主な対象とした、業務支援型クラウドツールやAX/DXソリューションの提供）は、例年通り、季節要因により前第4四半期から平均顧客単価が低下したものの顧客獲得が計画を上回るペースで伸長し、ストック収入の拡大に寄与しました。また、4,700社を超える顧客基盤を活かしたアップセル・クロスセルに向け、既存プロダクトの機能拡充やプロダクトラインナップ拡大も進めております。

当該セグメントでは、ストック収入の中長期的な成長に向け、前述のプロダクト開発やテストマーケティング等への投資を加速させております。

その結果、当第1四半期連結累計期間におけるAIクラウド&コンサルティングセグメントの売上高は1,855,498千円（前年同期比239,624千円増（14.8%増））、セグメント利益は744,074千円（前年同期比311,610千円増（72.1%増））となりました。

<ライフ&プロパティソリューションセグメント>

当該セグメントにおいては、収益性に優れたリカーリングフィーを積み上げる積層型ビジネスモデルへの転換を進めており、前期に「ダブルツリーbyヒルトン東京有明」の運用を開始する等、アセットマネジメント事業における安定したストック収益を積み上げておりますが、当期は自社開発物件の売却時期が下期に偏重する見込みとなっております。

その結果、当第1四半期連結累計期間におけるライフ&プロパティソリューションセグメントの売上高は2,839,276千円（前年同期比795,280千円減（21.9%減））、セグメント損失は499,033千円（前年同期はセグメント利益490,516千円）となりました。

<その他セグメント>

本セグメントでは、中長期的なサステナブルグロースに向けて新規プロダクト開発を行っており、「リアルビジネスを内包した実務有用性の高いテクノロジー」の創出に取り組んでおります。

その結果、当第1四半期連結累計期間におけるその他セグメントの売上高は、ヘルスケア事業の事業運営により19,341千円（前年同期比1,401千円減（6.8%減））、セグメント損失は新規プロダクト開発投資により106,870千円（前年同期はセグメント損失50,416千円）となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ2,481,748千円増加し、32,952,053千円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末より2,294,807千円増加し、26,787,223千円となりました。これは主に、棚卸資産が1,033,926千円増加したことによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末より186,940千円増加し、6,164,829千円となりました。これは主に、投資その他の資産が172,369千円増加したことによるものであります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ2,704,780千円増加し、18,828,838千円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末より114,362千円増加し、7,042,915千円となりました。これは主に、買掛金が698,774千円、未払法人税等が317,336千円減少した一方、短期借入金が1,220,092千円増加したことによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末より2,590,418千円増加し、11,785,922千円となりました。これは主に、長期借入金が2,544,226千円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ223,032千円減少し、14,123,215千円となりました。これは主に、配当金の支払等により利益剰余金が260,946千円減少したことによるものであります。

なお、自己資本比率は40.6%となっております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2025年5月13日の「2025年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,384,560	4,586,130
売掛金及び契約資産	2,119,412	2,217,502
営業出資金	3,289,759	3,299,924
棚卸資産	13,808,977	14,842,904
その他	893,017	1,843,787
貸倒引当金	△3,312	△3,025
流動資産合計	24,492,416	26,787,223
固定資産		
有形固定資産	846,500	901,134
無形固定資産		
ソフトウェア	965,248	1,001,078
のれん	2,443,326	2,368,037
その他	10,378	9,773
無形固定資産合計	3,418,953	3,378,889
投資その他の資産	1,712,435	1,884,805
固定資産合計	5,977,889	6,164,829
資産合計	30,470,305	32,952,053
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	928,172	229,397
短期借入金	3,803,364	5,023,456
未払金	354,044	354,079
未払費用	450,075	415,747
未払法人税等	591,765	274,429
賞与引当金	262,462	140,339
その他	538,667	605,466
流動負債合計	6,928,553	7,042,915
固定負債		
長期借入金	8,330,998	10,875,225
退職給付に係る負債	67,974	70,749
その他	796,530	839,947
固定負債合計	9,195,503	11,785,922
負債合計	16,124,057	18,828,838
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	4,246,400	4,246,400
資本剰余金	4,119,452	4,119,452
利益剰余金	5,788,701	5,527,755
自己株式	△502,520	△502,615
株主資本合計	13,652,034	13,390,993
新株予約権	129,414	137,891
非支配株主持分	564,798	594,330
純資産合計	14,346,248	14,123,215
負債純資産合計	30,470,305	32,952,053

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
売上高	5,067,177	4,240,368
売上原価	2,616,603	2,629,639
売上総利益	2,450,574	1,610,728
販売費及び一般管理費	1,599,555	1,518,283
営業利益	851,018	92,445
営業外収益		
受取利息	1	2,254
その他	633	677
営業外収益合計	635	2,932
営業外費用		
支払利息	31,089	49,679
その他	5,321	14,171
営業外費用合計	36,411	63,850
経常利益	815,243	31,526
特別利益		
投資有価証券売却益	6,237	—
特別利益合計	6,237	—
特別損失		
固定資産除却損	—	1,471
特別損失合計	—	1,471
税金等調整前四半期純利益	821,480	30,055
法人税、住民税及び事業税	153,997	177,406
法人税等調整額	128,383	△157,466
法人税等合計	282,380	19,940
四半期純利益	539,099	10,115
非支配株主に帰属する四半期純利益	41,940	29,531
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	497,159	△19,416

## (四半期連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
四半期純利益	539,099	10,115
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△3,930	—
その他の包括利益合計	△3,930	—
四半期包括利益	535,169	10,115
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	493,229	△19,416
非支配株主に係る四半期包括利益	41,940	29,531

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

## I 前第1四半期連結累計期間(自2024年4月1日至2024年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1.	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2.
	AIクラウド& コンサルティング	ライフ&プロ パティソリューション	その他	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,417,199	3,629,234	20,743	5,067,177	—	5,067,177
セグメント間の内部 売上高又は振替高	198,674	5,322	—	203,997	△203,997	—
計	1,615,874	3,634,556	20,743	5,271,174	△203,997	5,067,177
セグメント利益又は損失 (△)	432,463	490,516	△50,416	872,563	△21,545	851,018

(注) 1. セグメント利益又は損失の「調整額」△21,545千円は、セグメント間取引消去を記載しております。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

当第1四半期連結会計期間において、株式会社メディックス等の株式を取得し、新たに連結の範囲に含めております。これらにより、前連結会計年度の末日に比べ、当第1四半期連結会計期間の報告セグメントの資産の金額は「AIクラウド&コンサルティング」において4,226,628千円増加しております。

また、当第1四半期連結会計期間において、棚卸資産の増加等により、前連結会計年度の末日に比べ、当第1四半期連結会計期間の報告セグメントの資産の金額は「ライフ&プロパティソリューション」において3,614,591千円増加しております。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「AIクラウド&コンサルティング」において、当社が株式会社メディックス等の株式を取得し、連結の範囲に含めたことにより、のれんの金額が1,816,876千円増加しております。

## II 当第1四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1.	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2.
	AIクラウド& コンサルティング	ライフ&プロ パティソリューション	その他	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,381,750	2,839,276	19,341	4,240,368	—	4,240,368
セグメント間の内部 売上高又は振替高	473,748	—	—	473,748	△473,748	—
計	1,855,498	2,839,276	19,341	4,714,116	△473,748	4,240,368
セグメント利益又は損失 (△)	744,074	△499,033	△106,870	138,171	△45,725	92,445

(注) 1. セグメント利益又は損失の「調整額」△45,725千円は、セグメント間取引消去を記載しております。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

該当事項はありません。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
減価償却費	93,914千円	114,354千円
のれんの償却額	61,395	75,016